

「あなたの信仰があなたを救った」

2015年07月06日

ルカによる福音書8章43節～48節。ときに、十二年このかた出血が止まらず、医者に全財産を使い果たしたが、だれからも治してもらえない女がいた。この女が近寄って来て、後ろからイエスの服の房に触れると、直ちに出血が止まった。イエスは、「わたしに触れたのはだれか」と言われた。人々は皆、自分ではないと答えたので、ペトロが、「先生、群衆があなたを取り巻いて、押し合っているのです」と言った。しかし、イエスは、「だれかがわたしに触れた。わたしから力が出て行ったのを感じたのだ」と言われた。女は隠しきれないと知って、震えながら進み出てひれ伏し、触れた理由とたちまちいやされた次第とを皆の前で話した。イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」

主イエスは会堂長ヤイロから一人娘のいやしを懇願され、彼の家に向かった。ヤイロが親しい関係にあった律法学者たちではなく、彼らと敵対していた主イエスに助けを求めたことは民衆には興味津々の出来事であった。どうなるかと、民衆は押し合いへし合いしながら、二人を追った。そこへ、一人の女が紛れ込んで来た。

彼女は12年間、出血が止まらない婦人病を患っていた。蒼ざめた顔で身体的にやつれていたであろう。医者に診てもらい、全財産を使い果たしていた。そして、出血は宗教的に「汚れ」とされた。レビ記15章25節に「もし、生理期間中でないときに、何日も出血があるか、あるいはその期間を過ぎても出血がやまないならば、その期間中は汚れており、生理期間中と同じように汚れる」と規定されている。肉体的、経済的に追い込まれ、宗教的にも不浄とされ、もちろん結婚もできない。彼女は、主イエスは病をいやされると伝え聞いた。主イエスが来られた今、後ろから近づき、服の房に触れた。婦人病だから恥ずかしくて、言葉に出して懇願することはできない。沈黙の、しかし、研ぎ澄まされた願いを持って、触れればいやされると信じ、主イエスの服の房に触れた。すると、直ちに出血が止まりいやされた。主イエスは「わたしに触れたのはだれか」と問われた。ペトロは、群衆が押し迫っているのも、誰が先生に触れたのか分かりませんと答えた。しかし、主イエスは「だれかがわたしに触れた。わたしから力が出て行ったのを感じたのだ」と言われた。言葉を交わしたのでもなく、目を合わせたものもない。彼女の一方的な切なる願いが主イエスの力を引き出したのである。執拗に探される主イエスに、隠しきれなくなって、震えながら進み出てひれ伏し、触れた理由とたちまちいやされた次第とを皆の前で話した。

教会には多くの人々が、それぞれ、何らかの求めを持って来ている。彼らは聖書を読み、主イエスに触れている。しかし、教会に留まり続ける人は少ない。もちろん、受け止める側の教会にも問題があるであろう。群がった者たちの多くが主イエスに触れたが、12年間、出血で苦しんだ彼女の触れ方は彼らとは全く違っていたのである。

いやされた彼女に主イエスは「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。救いは、信仰の持ち方によるのではなく、主イエスから来る。しかし、彼女の主イエスへの切なる祈りが、主イエスに聞かれ、長年の苦しい病がいやされた。そして、婚期を過ぎた女に「娘よ」と言い「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」という言葉ほど嬉しい言葉はないだろう。彼女の信仰から、どんな求道の心を持って、主イエスに向き合っているかを問われる。